



里川町室坂

水の思い出 ⑤2

元朝参り

子どもの頃、上野動物園に連れて行ってもらったとき、迷子になり、広小路交番のやさしいおまわりさんのお世話になった。以来、私の迷子癖は、家族の間では有名である。田舎でのんびり育った子どもにとって、東京の繁華街の雑踏は大河の流れに等しく、小さな体はたちまち人の波に押し流され親の姿を見失った。迷子になる感覚は、そういえば川の流れや海の波に流されそうになり、必死に逆らいながら泳いだあの感覚によく似ている。気づいた時にはすでに流されていて、自力脱出は結構大変なのである。

30代の半ば頃、今度は「人生」という河の流れの中で迷い、目標を見失った。悩んだあげく青春のすべてをかけた東京を離れふるさとに戻った。その年の暮れは、久しく会わなかった兄弟たちも集まってにぎやかな大晦日になった。除夜の鐘を聞きながら、昔のように若宮八幡宮に元朝参りに行くことになった。神社周辺は近づくにつれにぎわいを増し、たいそうな混雑ぶりである。おいしそうなおいのする露店が軒を連ね、縁起物の正月飾りの数々が彩り鮮やかにゆれて売り声が響いていた。懐かしいお祭りのようなその光景に私はしばし心を奪われ見とれていた。ふと気づくとさっきまで一緒だった家族が誰もいない! 「またか・・・」心の中で苦笑しながら参拝の人の流れと共に境内に進んだ。「オーイ、こっちこっち」兄や弟がニヤニヤしながら呼んでいた。「やっぱりねえ、大人になってもねえ」などと私をからかいながら、皆ちゃっかりと大きなたき火にあたって暖をとっていたのだ。兄が私に言った。「迷ったら、あったかいところにくればいい、みんないるから・・・」周囲のどの人の顔も新年を迎えた喜びと希望に輝き、笑顔がそこら中に溢れていた。なんだかいい年になりそうな気がした。

(天下野町 菊池 幾子)

常陸太田にいながら

日本縦断、初詣ツアー

来年のお正月、初詣はどこのお社にいきますか。まだ決まっていないう方は、各地の神様にお参りできる、贅沢なツアーはいかがでしょう。1つの地域にこれだけ多くの神社が集まっているのは、非常に珍しいそうです。近所の方がみかんや甘酒をふるまってくれたりして、心も体も温かくなりますよ。(武藤 邦宏)

1 くまの
熊野神社 (木崎二町)




- 1 三重県熊野市 熊野本宮大社
- 2 無病息災、所願成就
- サッカー日本代表のシンボルマーク「八咫鳥」はこの神社のお使いです。

2 わけいづち
別雷神社 (西三町)




- 1 京都府京都市 賀茂別雷神社
- 2 厄除、災難除、家内安全
- 「別雷」の「別」は「若」という意味で、若々しい力に満ちた神様です。

3 やまだ
山田神社 (西三町)




- 1 三重県伊勢市 伊勢神宮外宮
- 2 衣食住の恵み、産業振興
- 食物をつかさどる神様として崇められています。

4 真夜中に「何かやっている」と思ったら、朝刊配達の準備でした。こうして一生懸命配達して下さるおかげで、元旦の朝から新聞が読めるんですね。感謝、感謝です。



5 おいむ
御岩神社 (東三町)



- 1 山形県鶴岡市 湯殿山神社
- 2 無病息災、病気快癒
- 湯殿山は今流行の再生、回復のパワースポットと言われ、健康を願う人々が集まります。

6 みつみね
三峰神社 (木崎一町)




- 1 埼玉県秩父市 三峰神社
- 2 農耕豊作、防犯、厄除け
- 狼を従え、農作物を荒らす害獣や盗賊、災害などから守ってくれています。

7 坂谷稲荷大神社御霊

板谷稲荷神社お札

8 ばんや いなり
板谷稲荷神社 (東二町)




- 1 京都府京都市 伏見稲荷大社
- 2 五穀豊穡、農業をはじめ産業の振興
- おいなりさんの愛称で慕われる農業の神様で、佐竹氏の氏神でもあります。

9 あきは
秋葉神社 (西三町)




- 1 静岡県浜松市 秋葉山本宮秋葉神社
- 2 防火、火伏せ
- 神官さんや、町内の方のお出迎えはありませんが、ぜひ御参りしてください。

10 わかみやちまんぐう
若宮八幡宮 (内堀町)



- 1 神奈川県鎌倉市 鶴岡八幡宮若宮
- 2 厄除開運、必勝祈願
- 境内を埋め尽くし、参道外の道路まで並ぶ参拝者に圧倒されます。

11 まいづる いなり
舞鶴稲荷神社 (中城町)



- 1 京都府京都市 伏見稲荷大社
- 2 五穀豊穡、農業をはじめ産業の振興
- 話をしていたら、お神酒をすめられ… 帰り運転なんです。ごめんなさい。

12 かなさ
金砂神社 (馬場町)



- 1 滋賀県大津市 日吉大社
- 2 天下泰平、国家繁栄
- 昔、磯出大祭礼の行列が休んでいた姿を思い浮かべるとロマンを感じる神社です。

13 ばばちまんぐう
馬場八幡宮 (馬場町)




- 1 京都府八幡市 石清水八幡宮
- 2 念願成就、戦勝祈願
- 400年の歴史を刻む本殿が荘厳にたたずんでいます。

14 あたご
愛宕神社 (栄町)



- 1 京都府京都市 愛宕神社
- 2 防火、火伏せ
- 3歳までに参拝すると一生火事に遭わないと言われています。

15 静かな商店街にベッタン、ベッタンという餅つきの音が… こんな楽しいサプライズに出会えるのもこのツアーの醍醐味です。



16 こんびら
古刀平神社 (内堀町)



- 1 香川県仲多度郡琴平町 金刀比羅宮
- 2 航海の安全、大漁祈願
- こんびらさんの愛称で海上交通の守り神として慕われています。

17 あぶり
阿夫利神社 (西一町)



- 1 神奈川県伊勢原市 大山阿夫利神社
- 2 山の幸、野の幸、海洋の守護
- 酒造の神様としても広く知られています。

ちなみに…
主なご利益は神社の由来や一般的な言い伝えなどから、あげましたが、神話では神様は様々な姿を持っていて「その件は専門外なので残念ながら…」などということはないそうです。
家内安全や困っていること、叶えたいことをどこの神社でお祈りしていただいても大丈夫です。



大山阿夫利神社御霊

舞鶴城址に鎮座する若宮八幡宮

■若宮八幡宮の神様

大鷦鷯尊（おおささぎのみこと、仁徳天皇）家内安全、幸福の神様、思いやりの神様です。

御由緒 応永年間（1394～1427年）、佐竹13代義仁公が、鎌倉八幡宮より勧請し舞鶴城内に祀り、守護神としたのがはじまりです。以来、佐竹氏の祈願所となりました。

慶長14年（1609年）、水戸藩初代藩主 徳川頼房公が7才の時に病を患い、その病氣平癒を祈願され、全快しました。以来、水戸徳川家より手厚い崇敬を受け、元禄5年（1692年）光圀公が若宮八幡宮を太田郷の鎮守とされました。

■氏子の子女が心をこめて舞う鶴子舞（巫女舞）

昭和15年皇紀二千六百年を記念し、全国の神社で奉祝臨時祭を行うに当たり、祭典中に奉奏する神楽舞を新たに作ることが立案されました。当時の宮内省が全国の神社に伝わる神楽舞を下地に作曲作舞した神楽舞を「浦安の舞」と言います。若宮八幡宮の社伝には『応永年間（1400年頃）佐竹義仁公が鎌倉鶴岡八幡宮より居城舞鶴城中に若宮八幡宮・稲荷大明神両社を奉斎された際に、鶴子なる女性が共奉して来り、数世祭祀を司った。』とあり、その由緒に基づき、「浦安の舞」を鶴子舞と称し、初めて記念祭典において奉納されましたが、その後長く途絶えてしていました。



昭和15年

平成16年の平成御造営・常陸太田市制50周年のお祝いに向けて、鶴子舞を復活し奉納したいと

氏子さんに呼びかけたところ、当時小学5～6年生の氏子のお嬢さん8人が応えてくれて、舞や所作の教えを受けました。岩瀬町（当時）の磯部稲村神社から舞の先生をお招きし何度も練習を重ねたそうです。式典で奉納された際、巫女装束の少女の立ち居振る舞いのすがすがしさや、懸命に舞う姿をごらんになった方も多と思います。

現在、当時の1期生は高校生や大学生となっており、第3期生を新たに氏子さんたちに呼びかける準備もすすめられています。鶴子舞の奉納は、毎年5月の例大祭や6月の夏越し



平成16年

の大祓いに行われますのでぜひお出かけになってはいかがでしょうか。

■浦安の舞

天地（あめつち）の神に祈る 朝なぎの 海のごとくに
波たたぬ世を 昭和天皇御製

「浦安の舞」は、昭和天皇の御製に宮内庁雅楽部楽長（当時）の多忠朝（おのおのただとも）が作曲作舞しました。「天に居ます、天つ神、国に居ます国つ神、八百万の貴い神々様にひたすら祈ります。朝の穏やかで静かな海のように、波の立たない平和な世の中に成りますことを。」という意味だそうです。（相原 早苗）



お愛宕さん

～町内をめぐる小さなお社のお話



■小さなお社

東一町に仲間入りして一年になろうとしていたある月、お隣さんから町内のある伝統を教えてくださいました。

「来月は私たち2軒でお愛宕さんをお預かりするんですよ」と。隣同士の2軒が月の前半と後半にわかれ、上の写真の小さなお社をお預かりするのです。

お社は古色を帯び、歴史を感じさせるもので、一緒に墨で黒々と「当番表」と書かれた綴りも回って来ました。当番は毎月24日に、金砂郷・玉造の愛宕神社にお参りをすることにもなっていて、その当番表には今まで毎月お参りをしてきた町内の方たちの名前が記されていました。

ページをさかのぼって行くと、懐かしい方のお名前も見え、

長く大事に続けられてきたことが分かります。

■いわれや歴史は？

「昔はこの町内もお社があったんだって。何かのことで八幡様へお返ししちゃったんだとか伝え聞いてます」「お社を返して

しまったある年に大きな火事があり、それからはお愛宕さんへお参りをするようになり、こうやってお社を預かるようになった」のだそうです。

月のお参りの他に、年に一度、1月24日には町内全世帯でお参りすることも続けられています。旧常陸太田市の鯨ヶ丘から金砂郷町の玉造まで、当然のことながら昔は歩きや自転車で……。雪の日も多かったと教えてくださいました。

■お愛宕さん

親しみを込めて、そう呼ばれている愛宕神社は火伏せの神様として信仰を集めています。玉造の表参道を行くと、鳥居の下をぎりぎりの幅で車が通って行きます。

石段を登った先には本社と



神楽殿があり、見事な彫刻に驚かされます。社殿のまわりをぐるっと回ると美しい神馬像の奉納殿があり、色鮮やかな神馬をみながら、時空の感覚が揺らいでいくような気がしました。



年末年始などの刻ときの区切りは、様々な伝統行事で彩られています。伝統を守りつづけてきた人々にも想いを寄せながら、新しい年月を重ねて行こうと思わされました。(塩原 慶子)

生涯学習情報誌「フォズ」は、2～3ヶ月毎に発行し、市内全世帯に配布され、大きな宣伝効果が期待できます。ぜひご利用下さい。

- ◆広告を募集している情報誌
 - 平成23年2月から平成23年4月までに発行予定の生涯学習情報誌「フォズ」第54号から第55号
- ◆広告料(1回あたり)※会長が指定するページの最下段
 - ① 縦4.5cm×横 8.8cm/10,000円
 - ② 縦4.5cm×横17.9cm/20,000円

問合せ フォズ・ネットワーク事務局 TEL:0294-72-8888
(生涯学習センター内) URL:http://edu.city.hitachiota.ibaraki.jp/gakushu/

時を越え人々に涼と潤いをあたえる

塩の草の大梨

平成23年の秋、常陸太田市で「巨樹フォーラム」が開催されます。樹木はその姿の中に、育った土地の風土を内包し、巨樹は悠久の時の流れさえ感じさせます。フォレストでは巨樹ではないけど、人に愛された樹木をご紹介します。樹木と人が紡いできた物語です。



小妻町塩の草集落に一際目立つ巨樹があります。巨樹というと普通はケヤキやサクラなどを連想しますがこれはなんとナシ。それもヤマナシという、野生種ではなく園芸果樹。食べられるナシです。

管理者の豊田茂さんによると、この大梨は三度の火災を生き延び、慶応元年の火災では幹の半分が焼け、そのとき焼けた幹半分が洞になったとのこと。明治にあった小妻の大火でもこの木は残り、茂さんが幼少のころはこの洞に入ってよく遊んでいたそうです。また、昭和40年代に豊田さん宅を含む周辺の家々を焼失させるほどの大火があったときもこの梨の木は焼け残ったそうです。

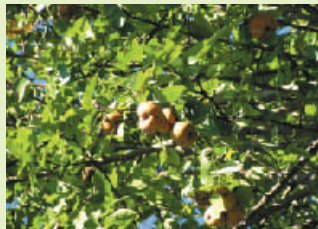
梨の木を鬼門（北東の方向）に植えることによって「鬼門無し」と縁起の良い用い方をした伝えがあるそうです。まったくの勝手な想像ですが、この大梨もそんな由来があったのでしょうか。

かつてこの近くの薄葉沢沿いに、平潟大津街道と呼ばれる平潟・大津から笠石、塩の草を抜け、那須へ向けて海産物や塩を運んだ道があり、平潟・大津方面から来る人たちは、この大梨を目標に小妻を目指したそうです。

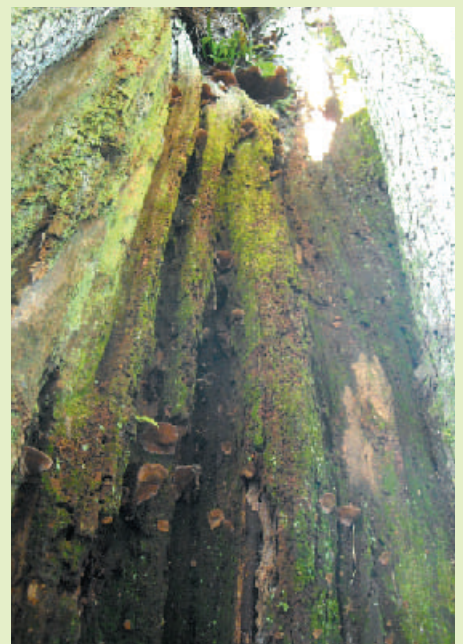
梨の花言葉は、「博愛」。いにしえの時より、この地域の人々や街道を行き交う人たちを見守ってきた大梨。これからも和やかな愛情で人々を包み守ってくれるような気がしました。
(岡崎 靖)



4～5年に一度剪定をすると、新しい枝を出し、たくさんの実をつけてくれます。300年以上経ってもまだまだ現役！生命力の強さに圧倒されます。



取材中、偶然にも実が自然落下。家の方の許可をいただいて、ひと口カブリ。味は確かに梨ですが今の梨よりもザラっぽく、酸味も強い印象でした。しかし、ほんのり感じる甘味と十分な水分は当時の人たちの清涼剤となっただけではないでしょうか。



度重なる大火を切り抜けた証は洞となり、別の世界を見せてくれます。

百姓母ちゃんの
たべもの日誌④
ちよと農天気!

『ご飯のおやき』

「ただいまー！今日のおやつなーに？」実によくおなかをすかせて小学校と保育園から帰ってくる子どもたち。すぐに食べられる何か、を用意しておくことは必須の策。しかし、それが甘くてサクサクのお菓子やとろけるスイーツなんてことはあまりない。子どものおやつは昼と晩の食事の間に摂る軽い食事と思っているから、できるだけお腹にたまるもの、そして甘すぎないものを、と思っている。だから、お菓子の横にも、何気なくおにぎりをドーンと置いておく。すると、子どもたちは最初は菓子里に飛びつくが、いつの間にかおにぎりに手が伸び、あれよあれよという間に平らげている。そして、夕飯の支度が済むまでおとなしく遊んだり、宿題を片付けたりしてくれれば、百姓母ちゃんの作戦成功！そんなおやつにおすすめるのは「おやき」。

「ご飯が余ったときに作っておくといいよ。」隣のばあばに教わった、ごはん和小麦粉を混ぜてこねただけの、みそ味のおやき。残りご飯が温かうちに

味噌と混ぜ、小麦粉を加えて、ひたすらこねる。手にくっつかないように粉を足しながら、べとつかなくなるまで粉を加えてよくこねて、おもちのように丸くまとめる。それを手のひらサイズに平たく丸め、熱湯で茹でる。浮き上がってきたら取りだして、さらに焼き網で両面をこんがり焼いてでき上がり。こねて、茹でて、焼いてと面倒なようだが、材料も方法もいたってシンプル。ただ、ご飯と粉のこね具合が、熟練のばあばと私では段違いで、私がやるとご飯を入れたお好み焼きのようになるが、ばあばのはもちりとご飯と粉が混ぜ合わさって、食べるとさっぱりしたもちのようになる。味噌の風味とご飯の甘みが絶妙に混ざり合う、いくらでも食べたくなるおやつなのだ。

この「こねる」という仕事は、なかなかすぐには覚えられない名人芸であると思う。団子をこねたり、うどんをこねたり、その手業を見るたびに、“慣れ”とは、面倒をいとわず、おいしいものを作るためなら妥協しない姿勢の中にあるものだと思う。

(木の里農園 布施 美木)



子育て奮闘記

踊るママパラダイス 52

「チャンス！」と私が笑うときは、だいたい困っているときです。こう言うと周囲の人からは「？」という顔をされます。「今、これを解決できたら後で困らない！」—そのために私はわざと笑う。

まだ子どもが小さかった頃までは、私はいわゆる“へたれ”でした。困難な場面で立ち上がれない、ぐずぐずと愚痴をこぼす迷惑な存在だったと思います。

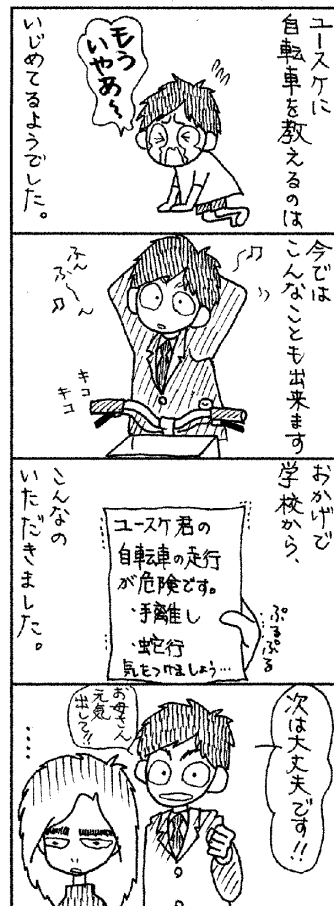
そんな私のもとにコミュニケーションが苦手なユースケが生まれてきました。「何で分からないの？」と泣いた日々があつて、それでも後になって「あの時があつたら今がある。」と思えるようになりました。今でも将来の事を考えると血圧が上がっちゃいますが、一緒に頑張っています。先生に言われたことがあります。「教えないことは分からない。」「未経験のことはできない」全くその通りですよ。それは、大人でも同じ事で、いろんな経験をして大人になっているのでしょう。だから私は今日もとりあえず笑います。

中学1年生の末娘ゆきのが思春期を迎え、生まれたときから反抗期だったような彼女はますますパワーアップですが、親が手を貸せない部分で八方ふさがりを経験しているようです。まだ若くて、困難の渦中にある彼女に「チャンス！」と言っても分からないでしょうが、乗り越えられたらひとつ成長ができるでしょう。

八方ふさがりで出口が見つからないなら、とりあえずどこでもいいからその壁を叩いて穴を開けてごらん、ゆきの。その穴からは意外心地よい風が吹いてくるかもしれないよ。

— わいわいネット 織田 裕子 —

さあ!! 笑うんだ (^^)



リレー
エッセイ 「思い出の絵本」

『くまたくんの
えほんシリーズ』

～51～
(天神林町 河西 渚)

私が紹介する絵本は、くまたくんのえほんシリーズです。最近、小学1年生の娘が読書のために借りてきた絵本です。乗り物好きな息子はまだ字が読めないで姉が絵本を読み始めるとそばに行って興味津々に聞いているのです。それを見て、そんなに面白いのかなと思い、私も読んでみて納得、心に残る絵本になりそうです。

人ではなく、くまのくまたくんが主人公です。くまたくんがママとお買い物に行き迷子になった時、パパとお留守番した時など日常生活のことや、くまたくんが家族旅行で新幹線やSL、飛行機など色々な乗り物を体験したこと、家族でキャンプをしたことなど、その時々のかまたくんの驚きや興奮がすごく伝わってきます。子どもはもちろん、大人も楽しめる絵本でした。私が特におすすめするのは『ぼくパトカーにのったんだ』というお話です。これは私も気をつけなければと深く反省させられたお話です。ぜひ読んでみて下さい。



(次回は 天神林町 南 真由さん)

ほつ
とひといき

ツマグロヒョウモン
(タテハチョウ科)



秋のよく晴れた日に、市内の公園や空き地の草むら付近、建物の周辺を大変色あざやかな中型のチョウがゆるやかに飛んでいるのを見かけることがあります。雌は、羽根の縁が黒色をしているので非常に

目立ちますが、雄はキタテハのように全体が黄色味を帯びています。

成虫はマリーゴールド、セイタカアワダチソウ、アキノキリンソウなど主に黄色い花に蜜を吸いに來ます。蛹は黒色をしており、突起のいくつかは金色にピカピカ光っているので、初めて見つけた時にはびっくりします。幼虫はスマレ、コスミレなどスマレの仲間の葉を食べて育ちます。春から秋までの間に2～3回成虫がかわります。

もともと南方系のチョウで、本州・四国・九州・沖縄から広く熱帯地方にまで分布しています。20年ほど前までは市内には全くおらず、時々台風による迷いチョウで見られるだけでした。現在では、関東地方各地で普通に見られるようになりました。おそらく地球温暖化の影響ではないかと思われま

す。このように市内で冬を越しながら、北上を続けているチョウでは他に、クロコノマチョウやモンキアゲハ、ナガサキアゲハなどがいます。
(古平 均)

ちよつとひといき

「さんぼみち」



「散歩がてらにふらっと寄ってもらえるような店に」との思いからつけられたお店の名前、「さ・ん・ぼ・み・ち」という名前のプレートが色とりどりに文字通り散歩しているように飾ってあります。

おすすめメニューはキムチピザ。子どもさんでも辛くなく食べられる優しい味です。

常陸太田市町屋町 1221 (駐車場有り)

電話 78-0035

営業時間 17:00～21:30

定休日 月曜日

(井坂 泉)

常陸太田の地名話 ～5～

さんざい
三才 【太田地区三才町】

八幡太郎義家の弟加茂二郎義綱が奥州下向の時、年の凶悪により、康平5年(1062年)から3歳(年)、この地にとどまり、信濃の諏訪神社を勧請して武運を祈願した。三才の地名もこれより起こったという。

(石川 誠)

「新編常陸国誌」「茨城県町村沿革誌」より



三才町の諏訪神社